



消防大学校だより

幹部科における教育訓練 ～新しい形での教育訓練について～

消防大学校は、国及び都道府県の消防の事務に従事する職員並びに市町村の消防職員及び消防団員に対し、幹部として必要な教育訓練を行うとともに、消防学校並びに消防職員及び消防団員の訓練機関の行う教育訓練の内容及び方法に関する技術的援助を行うことを目的として設置されたものです。

現在、実施されている総合教育、専科教育及び実務講習の中で「幹部科」は、現場経験の少ない若手職員に対する指導力の強化、切迫する大規模災害等への対応力・指揮能力の向上など、幹部消防職員としての資質を向上させるための教育訓練の質的充実に加えて、柔軟な発想やアイデアの創出・政策立案、一般行政部門との連携、知事・市町村長部局との折衝、議会对応、人事管理、予算要求等の行政運営能力を向上させ、消防全体の組織力の底上げを図ることを目的としており、本年度は、総時間の1割に及ぶカリキュラムの見直しを図りました。

見直しの視点としては、現在、消防本部が抱える課題に対応することができるよう、講義の充実を図りました。これらの新規科目の導入と併せて、既存講義の時限数の見直しや校外研修の実施方法の見直しなどを図り、時間数はプラスマイナスゼロとなっていますが、内容面では間違いなくプラスに拡充されたと自信を持って言えるカリキュラムになったと考えています。

本年度から導入された新設科目の概要は以下のとおりです。

○ タイムラインと防災、防災・減災対策及び防災危機管理

想定を超える自然災害が頻発している状況の中、様々な観点から防災に関する対策を検討し、意識の向上を図ることを目的に導入しました。

○ 部下指導

部下指導の手法について学ぶことを目的として、民間企業で職場環境や仕事に対する姿勢などについて改革を行い、部下に「働きがい」を伝え一つのチームを作り上げた講師を新たに招聘しました。

○ 安全管理（災害救難体制）

殉職事案が絶えず発生している状況、また建物構造の変化により火災性状も変化している中、出動部隊の組織的な安全管理について学ぶことを目的に導入しました。

○ ハラスメント対策

職場におけるハラスメント対策の目的及びハラスメントの判断基準を再認識し、幹部職員として知っておくべき予防対策や対応策について学ぶことを目的に導入しました。

○ クレーム対応

消防に求める市民の期待が大きくなっていることに伴い、クレームも増加していることから、クレーム対応の基本姿勢及び対応手順などを学ぶことを目的に導入しました。



屋外で実施した入校受付

なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年度末から今年度当初に予定されていた教育訓練が残念ながら中止又は延期せざるを得ない状況でしたが、緊急事態宣言の解除から半月を経て、ようやく幹部科第61期から令和2年度の消防大学校における教育訓練について、様々な感染対策を講じながらスタートを切ることができました。

学生の入校受付時においては、教官による体調確認及



び検温を実施するとともに、体調管理のため2週間前から毎日検温を行いました。

カリキュラムは、入校から2週間は座学のみ講義とし、3週目以降からグループでの討議を取り入れた講義やシミュレーション訓練などを実施する構成としました。

教室についても、講師と学生との距離及び学生同志の座席間隔を十分に確保しました。

さらに、教室内に複数台のサーキュレーターの設置や十分な換気を行うとともに、休憩時には講師が使用したマイクや教壇を学生が主体となり消毒を行いました。

講師の方々もこのような状況を見て、自らフェイスシールドを着用され、飛沫対策を行う方もいらっしゃいました。

寮生活については、外出・外泊の制限はもとより、共同して利用する食堂や浴室の利用に時間制限を設けるなど制約の多いものとなりましたが、学生一丸となってこのような状況をしっかりと受け入れ、新たな生活様式を踏まえた対策を行うことにより、一人の体調不良者も出ずことなく、無事に卒業を迎えることができました。

今回の幹部科は、全国の消防本部が抱える課題に対応するための講義、さらには新型コロナウイルス感染症対策を講じた新しい形での教育訓練となりました。

幹部科は、現在の消防が直面している課題に向き合い、魅力あふれる講師陣による実益ある幹部科にリニューアルされていますので、是非多くの本部からの受講申請をお待ちしています。



フェイスシールドを着用しての講義



マスクを着用しての通常点検



ひとりの欠席者も出ることなく無事に卒業

問い合わせ先

消防大学校教務部
TEL: 0422-46-1712